

グループホーム どんぐり

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		介護10か条は毎年見直していく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理念が実現できているかの振り返りを行っていききたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		地域の方にもっと知ってもらえるような機会を作っていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		しいの木庵をギャラリーにして立ち寄っていただける様に働きかけていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		今後も地域の活動に参加する機会が増えるよう取り組んでいきたい。

グループホーム どんぐり

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の介護者教室に講師として参加し認知症についての話をしたりしている。まつり古賀の際は抹茶を提供したりしている。また、地域の老人会、福祉会等の見学を積極的に受け入れて、相談・質問等に応じている。		グループホームの有している資源(人材を含む)を地域に役立てていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価前は自己評価を各自で行い評価後は職員で話し合い具体的な改善に取り組んでいる。		評価前もスタッフみんなで意見交換し取り組んでいきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて月例報告や外部評価結果を報告し運営や介護の質の向上に取り組んでいる。ご家族の意見や地域の代表者の方からの意見を伺いサービスに取り入れている。		今後も広く意見を求めていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月1回管理者が市を訪れグループホームの利用状況を報告している。空き状況などの報告も行っている。市と共に質の向上に取り組んでいる。		今後も市町村と連携を深めていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	年に1回成年後見制度、地域権利擁護事業の勉強会を行っている。また、その資料を事業所に置きいつでも見ることが出来る様にしている。実際に成年後見制度、地域権利擁護事業を利用されている。		今後も勉強会をしていき知識を深めていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会実施している。資料を事業所に置きいつでも見ることが出来る様にしている。出来るだけ2人体制での介護を実施している。		今後も勉強会を実施し言葉かけにも注意し居心地の良い場所となるようにしていきたい。

グループホーム どんぐり

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約や解約の際は個別に面談し、十分説明し納得の上で契約を結んでいる。</p>		<p>今後も十分説明し、契約後もフォローしていきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員配置を手厚くしているためゆっくり話が出来、入居者様同士のトラブルには職員がいち早く察知し、1対1で話を聞くようにしている。</p>		<p>今後も話の出来る環境を作っていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月写真入の利用者様の御様子を請求書と一緒に送付している。また、面会時にも毎日のご様子を報告している。職員状況は玄関に掲示し職員配置がわかりやすいようにしている。来所時には入居者様と一緒に個人別アルバムを見ていただいている。</p>		<p>今後も御家族とのよりよい関係を築いていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時には苦情受付窓口の説明を行っている。また、面会簿の横に意見箱の設置や、家族会時に意見交換を行っている。ご家族面会時にはご様子を話し意見を言いやすい雰囲気を作っている。</p>		<p>今後も御家族とのよりよい関係を築いていき、なんでも話せる雰囲気を作っていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、業務ミーティングにて意見、提案を聞いている。運営者や管理者に相談できるようになっている。</p>		<p>問題意識を常に持って仕事をし、より良いグループホームの運営に向けて努力していきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>臨機応変に職員配置の調整を実施している。</p>		<p>今後も要望や、状況に応じて人員の調整をしていきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>出来るだけ長く働けるようにスタッフ間の輪を大切にしている。また、離職者が出た場合には不安を与えない雰囲気や声かけを行っている。</p>		<p>今後も職員が長く働ける環境づくりを目指していきたい。</p>

グループホーム どんぐり

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の性別、年齢で対象から排除されない。職能給制度を採用しているため各々が常に目標を持って職務に励むことが出来る。また、各職員には業務の担当をもってもらい能力が発揮できるようにしている。</p>		<p>今後も職員が能力を発揮できる環境づくりを目指していきたい。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>管理者、職員の話し合いで決めた介護10か条を掲示し、会議の際振り返りを行っている。職員が入職した際のオリエンテーションで人権についての話をしている。</p>		<p>勉強会を通じて人権に関する意識を高めたい。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月の勉強会や法人内外の研修に参加することで知識、技術の向上に努めている。研修の資料も提供している。全スタッフが上司と相談の上、目標を立て年度末に評価する仕組みを設けている。</p>		<p>毎月の勉強会の充実を図っていきたい。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に加入し地域の同業者との勉強会に参加している。また、地域の事業所の集まりに参加したり講師をしたりしている。</p>		<p>地域のグループホームとも協力しネットワーク作りを図っていききたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>一人で悩みを抱え込まないように話し合い等意見交換をしている。また、納涼会や忘年会など実施し職員間のコミュニケーションを図れるようにしている。年3回面接の機会を設けて話を聞けるようにしている。</p>		<p>スタッフ間で何でも話せる雰囲気を作っていきたい。</p>

グループホーム どんぐり

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	能力開発カードを作成し、目標に向けてスタッフが向上心を持って働けるようにしている。		目標を達成できるようにフォローしていきたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にお会いして本人とお話することで関係を作っている。不安が有るときなどはグループホームに来てもらったり、自宅に訪問したりする機会を多く持っている。話を良く聞き受容するように心がけている。		面接技術の向上を図り、話しやすい雰囲気を作っていきたい。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に面談を行い御家族の話を良く聞き、受容するように努めている。いつでも不安なことがあったら相談してくださいと声をかけている。		面接技術の向上を図り、話しやすい雰囲気を作っていきたい。
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に、よく話を伺い必要とされているサービスを見極めるようにしている。他サービス事業所間の連携もとっている。		他の介護サービスについての勉強も行っていきたい。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には御家族、御本人様に見ていただき、雰囲気を知っていただき入居して頂くようにしている。遊びに来てもらったり、お茶の時間にお誘いしたりと御家族と相談しながら行っている。		必要に応じて短期間入居していただき納得して入居していただく機会を作りたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に人生の先輩という気持ちで接し、人生経験の中でのアドバイスなどを受けており、支えあって生活している。調理の際、包丁の使い方や手順を教えてもらいながら行っている。また、レクリエーション時や新聞・テレビなどの最新のニュースを見ながら一緒に笑ったり怒ったりしている。		共に生きる関係作りをしていきたい。

グループホーム どんぐり

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様への取り組みをお伝えし、できるだけ御家族様にも関わりを持っていただけるような個別計画を立てている。行事等の際は写真を撮ってくださったり、準備を入居者様と一緒に手伝ってくださったりと協力いただいている。		今後も入居者様への取り組みを相談していきたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今までの生活歴の把握に努め、また、今の御利用者様の様子を伝えることにより、より良い関係が築いていける様に支援している。御家族様にも自由に過ごしていただけるよう努めている。		今後も利用者様とご家族様の関係の理解に努めていきたい。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙を出されたり、友達が会いに来られたりしている。前の自宅に行かれたりもされている。近所に買物に行かれた際は顔見知りの方に声をかけられることもある。		今後も外出し地域の方と触れ合える機会を作っていく。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングで話をされる時間が多く、よく会話がはずんでいる。利用者様同士の関係にも十分配慮しておりスタッフが間に入って関わりあうようにしている。		今後も必要に応じて職員が間に入り支援していきたい。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も、ご家族より相談があれば真意に対応している。契約終了後も認知症についての意見交換などをさせていただいたりしている。		今後もお便りを出し関係を維持していきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や、現在の暮らしの希望を御本人に尋ねたり、表情や言葉から把握に努め検討している。		今後も言動を受け止め本人本位に努めたい。

グループホーム どんぐり

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様に記入、もしくはお話しいただいた情報や、御本人様との会話の中で把握している。		今後もより詳しい情報収集に努め、ご利用者様を知っていききたい。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	独自のアセスメントやスタッフ間の情報交換で把握している。		スタッフ皆での情報収集に努め情報を共有していききたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月スタッフ全員参加のケアカンファレンスを実施している。ケアプランは入居者様、御家族様とスタッフで話し合いながら作成している。		ご家族様参加のケアカンファレンスをもっと多く開いていきたい。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを実施している。毎月モニタリングを行い実施状況や利用者様の状態の話し合いを行い、適宜変更している。		入居者様の変化に即対応できる様見直しの流れを作る。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	御入居者様の御様子やケアの実践、気づきを個別記録に記入し、情報を共有している。		ケアプランに沿った記録をしていき、記録のマンネリ化にならないようにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面会は24時間受け付けている。また、入居者様のペースに合わせた生活の支援を行っている。ご家族様も泊まることができ、グループホームと一緒に夕食を召し上がられたりされている。		今後も要望に応じて柔軟に対応していきたい。

グループホーム どんぐり

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防と協力し防災時、救急時の対応を検討した。また、地域の小学校との交流をされており喜ばれている。民生委員(運営推進委員会のメンバー)の方より地域の公民館でしている踊りの見学に誘っていただいたりしている。		今後も地域に参加できることがないか相談していきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーの勉強会にも参加したり、挨拶に伺ったりと面識を深めている。また、同法人内にもサービス事業所があり連携をとっている。		今後も相談、連携をとりやすい関係を維持していきたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ、事例はありません。		地域包括支援センターとの協働を働きかけていきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週、協力病院よりグループホームに訪問し診療を行っている。24時間連絡・相談体制がとれている。希望があれば入居前のかかりつけ医に受診をしてもらっている。常勤の看護師が医療との窓口になる事でよりスムーズな連携がとれている。		今後も医療との連携を図っていきたい。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医や専門医と連携をとり相談しながら対応している。		今後も医療との連携を図っていきたい。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が常勤しており常時、相談しながら健康管理等を行っている。		今後も看護師との情報の共有を図っていく。

グループホーム どんぐり

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された際は一週間に1回は他ご入居者様と一緒にお見舞いに行き、安心していただけるようにしている。入院中も担当看護師に様子を伺っている。退院前には病院にてカンファレンスを実施し安心して退院できるように支援している。		今後も入院された場合、安心して過ごして頂ける様に医療との連携を図りながら支援していきたい。
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	提携病院と御家族様とグループホームで話し合いの機会を持ち支援の指針を検討している。入居前の契約時にターミナルに関しての話もしている。カンファレンスの中でも意見交換し御利用者様にとって良い方法(生活)を検討している。		契約時に終末期でも受け入れていることを伝えているが、もう少し細かく話し合いの機会を持つ。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	24時間いつでも連絡できる体制が整っている。週一回の訪問診療により状態を把握していただいている。スタッフ同士でも意見交換し状態に応じて対応している。また、御家族様と相談しながら支援している。同意書によりケアの内容、範囲についての共通認識を持つようにしている。		細かな話し合いと同意書の作成をおこなっていききたい。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の居所に移る場合は、情報を交換しながらできるだけ今までの生活が継続できるよう支援している。		情報の交換をしながら環境の変化による混乱をまねかないようにする。
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護に関するマニュアルがありプライバシーを尊重している。また、介護10か条の中にも人権についての目標をいれ振り返りを行っている。		今後もプライバシー保護に関しての評価を定期的に行っていきたい。

グループホーム どんぐり

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者様の言動を受け止め支援している。できるだけ選択のできる言葉かけを心掛けている。		自己決定への支援が出来ているか振り返りをおこなっていききたい。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間も一人一人にあわせ食べていただいている。一日の過ごし方も入居者様にお聞きしながら散歩に行ったり、おやつを作ったり、談話したりしながら過ごしていただいている。		今後も入居者様に合わせたペースを大事にしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	敬老会など行事がある時や外出するときは化粧されたり、マニキュアをぬったりとおしゃれができるよう支援している。入居前からの行きつけの美容院に行かれる方もいる。		今後も一人一人に合わせたおしゃれへの支援をおこなっていききたい。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛付けや配膳、食器拭きは入居者様主体でスタッフと一緒にしている。糠漬けも作っていただいております、入居者様が収穫したなす、きゅうりなどをつけていただいた。		今後もみんなで協力して準備・後片付けを行い食事を楽しんできたい。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お一人お一人の嗜好を把握している。毎晩夕食時にビールを飲まれたり、食事時に漬物、めんたい、梅干等を召し上がられている。		今後も入居者様が自由に嗜好品を楽しめるよう支援していききたい。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	全ての入居者様に対してトイレでの排泄を試みている。できるだけ日中は布パンツで過ごしていただけるように排泄表を利用しながら支援している。ケアカンファレンスの中でも排泄に関するの検討をしている。		今後ご家族、利用者様と相談しながら羞恥心に配慮した排泄の援助を行っていききたい。

グループホーム どんぐり

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者様に合わせ希望があればいつでも入浴できる。季節毎に菖蒲湯、柚子湯等を実施している。温泉にも行って利用者スタッフも一緒に楽しむことが出来た。		今後も入居者様に合わせ、入浴を楽しんで頂ける様支援していきたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れないときは寄り添ったり、一緒に話をしたり、飲み物を提供したりしている。居室でゆっくり休めない場合はリビングの和室で休んでいただいたりしている。		今後もお一人お一人に合わせた休息への支援をカンファレンスで検討していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活歴や興味のあることを把握し、木工や裁縫、ガーデニングなどしていただいている。また、洗濯物干し・たたみや掃除、おやつ作り、米ときなど役割を持って生活していただいている。		今後も得意なことや興味のあることへの支援を行っていきたい。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて、個別で買い物に行き、日用品やおやつ、洋服などご自分で購入されている。また、月に2回は移動売店があり買物をされている。皆で買物に行く場合もある。		お金を使える機会を提供していきたい。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に合わせて散歩等の外出を支援している。毎月行事でドライブに行ったり、買い物に行ったりしている。		今後も入居者様の希望に応じて外出できる様支援していきたい。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月の行事予定はご家族様にもお知らせをしている。入居者様の要望で温泉に出かける機会を設けた。		外食などの機会も作っていきたい。

グループホーム どんぐり

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話をつけていらっしゃる方もいる。また、電話の希望があれば対応している。友人、家族様と葉書・手紙のやり取りをしていらっしゃる。		今後は、年賀状・暑中見舞いなどの手紙を出す機会を作る。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間もなく自由に来ていただいている。ご家族様にも自分の家と思っていただけるように声かけしている。来所時にはお茶をお出し心地よく過ごしていただけるよう配慮している。交流室を設け、入居者様やご家族はもちろん、地域の方や知人、友人の方もくつろげる様になっている。		いつでも気軽に遊びに行ける雰囲気作りを行っていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルが有り、全職員に読んでもらい理解している。ケアカンファレンスの中でも意見交換している。		勉強会を継続してスタッフ同士振り返りを行っていきたい。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夕方から早朝まで施錠しているが、日中は開放しており入居者様、面会者が気軽に出入りできるようにしている。		今後も日中は開放し出入りを自由にしていきたい。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	玄関にセンサーを設置し入居者様の出入りを把握できるようにしている。職員が連携し安全に過ごす事が出来るよう配慮している。ひやりはっとの検討も行い再発防止に努めている。		今後も入居者様が安心して過ごせる様ケアカンファレンスで検討していく。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要なものに関しては、入居者様の状態に応じ保管、管理している。ヒヤリハットの検討をし危険を防ぐようにしている。		今後も必要に応じて物品の保管方法などの検討をしていく。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作成しスタッフへの周知を図っている。また、事故に対する勉強会を実施しており防止に努めている。毎月、ヒヤリハットの検討を行い再発防止に努めている。		必要に応じてマニュアルの見直し、徹底を図っていく。今後も勉強会を定期的実施していく。

グループホーム どんぐり

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	対応マニュアルが有り急変時に対応できるように勉強会を実施している。救急救命講習を毎年実施し、心肺蘇生法などの訓練を行っている。		勉強会を定期的に行い知識を深めていく。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災機器の取扱い、防災に関しての心構え等入居者様スタッフと話し合っている。防災マニュアルがあり、定期的に訓練を行っている。		定期的に訓練、マニュアルの確認を行っていきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒の可能性があることについては入居前に話している。ヒヤリハットについてもご家族に説明している。		今後もご家族の方とリスクについての話をしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化時や異変時は業務日誌の申し送り欄に記載し、申し送り時には口頭でも申し送っている。看護師にも対応を相談し医師との連携をとっている。		今後も必要に応じて医療との連携を図っていく。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に服薬一覧があり、服薬の状況を把握している。変更があった場合は業務日誌申し送り欄に記載している。薬の在庫のところにもメモを張り変更の確認に努めている。		今後も服薬に関する理解が深まるようにケアカンファレンスにて話し合っていく。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	おやつに乳製品やかんてんを取り入れるよう心がけている。また、散歩、運動(体操、パワーリハビリ)など体を動かしていただいたり、入浴時腹部マッサージをしている。		今後もお一人お一人の状態の把握に努め便秘の対応に努めていく。

グループホーム どんぐり

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声かけや支援を行い清潔に心掛けている。必要に応じて歯科医師、言語聴覚士にも関わっていただいている。		歯磨きが苦手な方に対しての取り組みを検討していきたい。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人毎に食事量、水分量のチェック表を用いて把握している。水分がとりにくい方にはゼリーにしたり、味をつけたりしてとっていただいている。		個別に栄養、水分状態の把握に努めると共に一人ひとりに応じた支援に努めていく。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成しており、手洗い、うがいを励行している。看護師からの具体的な指導もある。また、インフルエンザの予防接種も行っている。		感染の流行前には再度徹底を図れるようマニュアルの確認する。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルにそって調理用具の衛生管理に努めている。真空調理と調理時の温度確認を行っている。ふきんは使用後消毒している。		マニュアルの徹底を行う。また、食中毒の時期に応じて再度食中毒の予防の確認を行っていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには植木や花を植え、表札も木で作成している。玄関も居蔵作りで木を多く使っており親しみやすい雰囲気になっている。		今後も季節毎に花を植えたりして入りやすい雰囲気大切にしていきたい。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明の色の工夫をしたり、カーテンや障子で日差しの調整を行っている。季節感が出るように、季節の花を飾ったり、入居者様と作成した作品を飾ったり、コタツを出したりしている。		今後も生活感や季節感のあるものを増やしていきたい。

グループホーム どんぐり

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、畳敷きの腰掛けや木製イスがあり、自由に過ごす事が出来る。		環境の整備し思い思いに過ごすことができる様支援していきたい。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたベットやたんす、装飾品を持って来て頂き、なじみのある部屋として過ごしていただいている。		今後もなじみのものを増やしていけるようにご家族様にも相談し居心地の良い場所を作っていきたい。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	生ごみや汚物処理はこまめに行い、また、必要に応じて酢水や重曹などを使い消臭し嫌なにおいがしないように心掛けています。換気もこまめに行い、温度調整は入居者様の意見を伺いながら行っている。		今後も自然な空気に触れられる様換気を行い、入居者様に応じ温度調節していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室など必要な場所には手摺りの設置をし、洗面所も高さの工夫を行っている。		安全に配慮しながら生活でのリハビリを行いできるだけ自立した生活を送って頂ける様に支援する。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	リビングにはわかりやすいように手作りのカレンダーを置いている。また、居室入口になじみのものを置いたりしている。		今後もわかりやすい表示の仕方をしていきたい。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	入居者様と一緒に洗濯物や布団を干している。また、花や野菜を植えて収穫している。入居者様をご自宅に植えられていた草花を移植し楽しんでお世話をされている。		今後もベランダを有効活用し楽しんでいけるように工夫していきたい。

グループホーム どんぐり

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム どんぐり

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)